松餘德若譚

菱齋上下

へ遠14
2687
6上

へ14 特
2687
6

松飾徳若譚

上

假名垣作

錦朝楼

加て吉版

千代の竹垣末葉そゝぐ白旗の梅林薫り傳へて常盤乃松の色変ぬムが功業を幼童等ふ知らせまゝ〳〵き老婆心ゑ此徳若の物語を前ふ綴りかけぬるに。僥倖ゆゑ時好ゑかゝ。既ふ六編の今ゝに至ゆり。是全くい名將の洪徳寛仁功臣等ぶ忠魂義膽ふ依る處散て作者の面目ちゝ〳〵ぎ然にても大須賀が述ると偽る。彼家の歴代記。平岩ぶ名を假りし參河後風土記及び。その餘の偽書乃妄説を。筆の掃木に除捨ゝ武徳編年集成の正訂き找採る實録ゆ。花を咲せ〳〵櫻木の壽長き小冊史にたゝん

浅草廣小路なる
駿河舎ふ潛伏〳〵て

假名垣氏文記

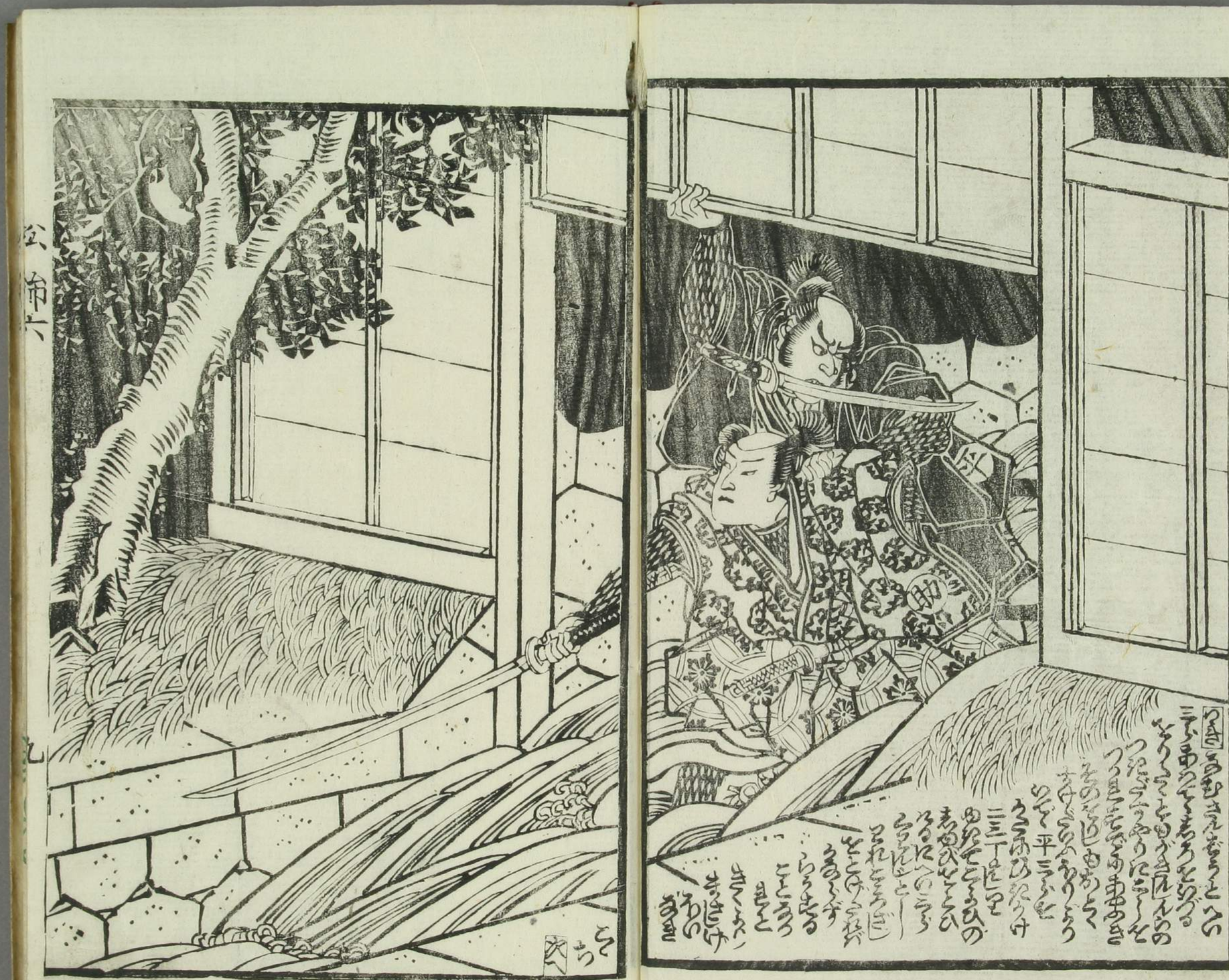
○戸田彈正憲光
○戸田の息女
永樂五貫文賞
○徳若丸
○石川与七郎數正
○常盤与一郎忠正

徳堪忍両後萬歳
奥河廣忠朝臣
勇臣
筧平三郎重忠

二

つゞき のぶひでとうせいと
そもじて三ぎうゆらんあ邑
上ぐぞ三木のぞまうけと
あひ邑とうぞ九ぐぞまうを
ぬうんとうとぐうとぞおひうぐ
あそんいとうぞのうぞ九ぐぞとあ
いちぞくをすてのぶひでおんを
よることとのきとうより刺客ゆくと
つゞいしぐとともとひそうおうらあて
せううあうめうちゆうううれひと
のぞうぐぐーとそきしんうけひ
平うぐうあげうぐとゆ邑ひそうに
あうせうあうあうう「あんぢとうぐ
ゆあうのびひうりてきうぐとあを
ひそうあせうぐのあうさんや
うあやこのうあ」小ゆうの
いうぢうぐ九とうあうり
あんぢうあううんあう
うれぢうぐうひこあうう九
ぎーをあてうぐとあを
ぢおうとあーてあげ
ううぐーゆ」つうき
ぎーとうぐうさうく
うらんとせびあん

ぢゆ又あうあううぐ
とをとうげうあう
ぢのーゆうう」うく
百うぐんのうを
ぎうぐんとト
のうあうふあうあぐ
うぐあのを
ううあうりて
奉じうを
ううりをの
あうをうあう
うぐあうあうき
しげに
うあうろ
ふうを
うをう
るに
うあう
ゆう
うう
ゆを
まうう
ううきうぐうう
のうううの 次八



魯文作

芳虎画

松飾徳若譚　五編　六編　七編　假名垣魯文作　孟斎芳虎画

今朝春三組盃　初編　二編　三編　山々亭有人補綴　三遊亭圓朝作話　錦朝楼芳虎画図

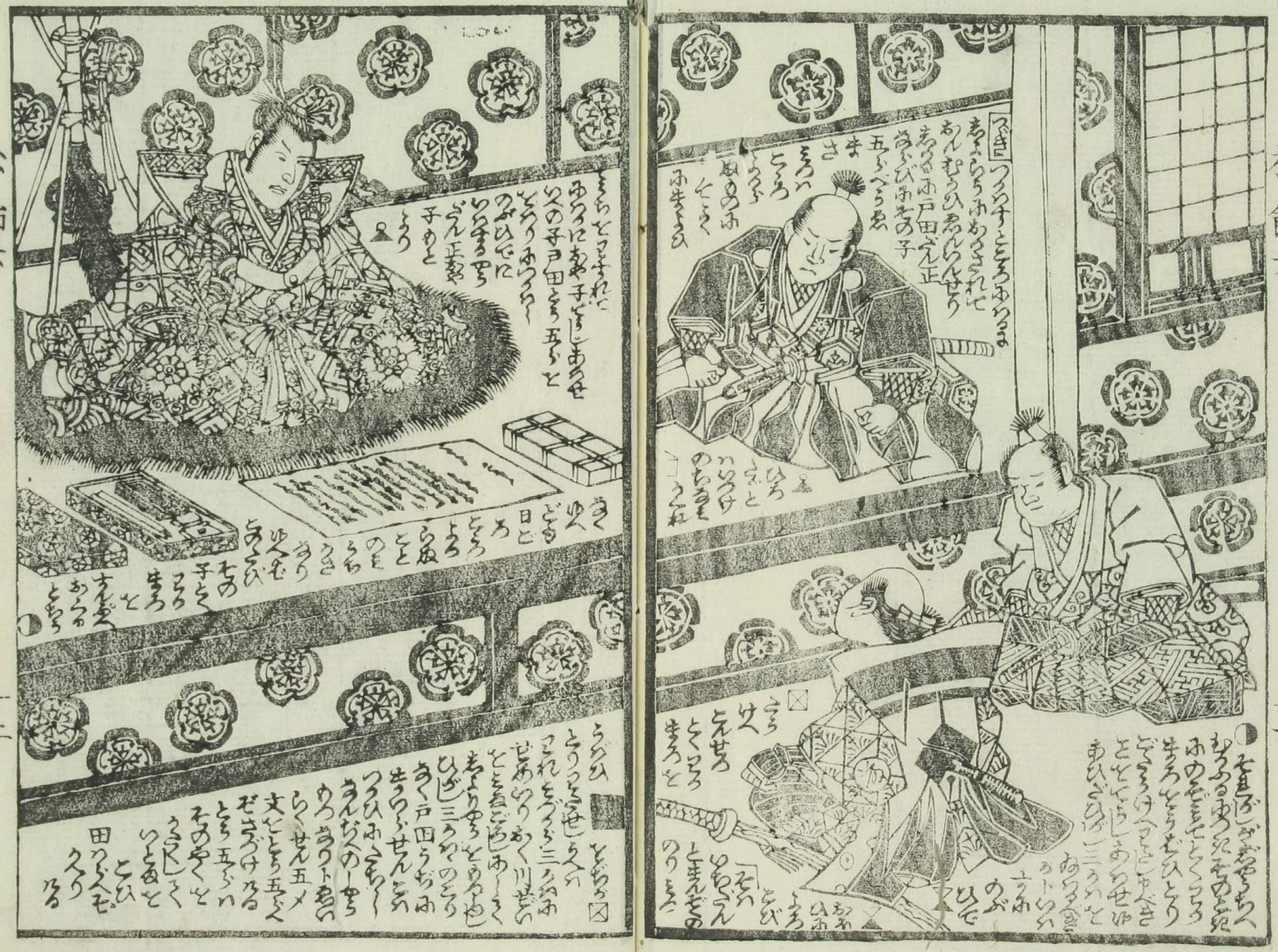
いろは節用女　初編　十編まで　山々亭有人作　歌川周重画

繪本太豐記　初編　二編　三編　孟齋芳虎画作

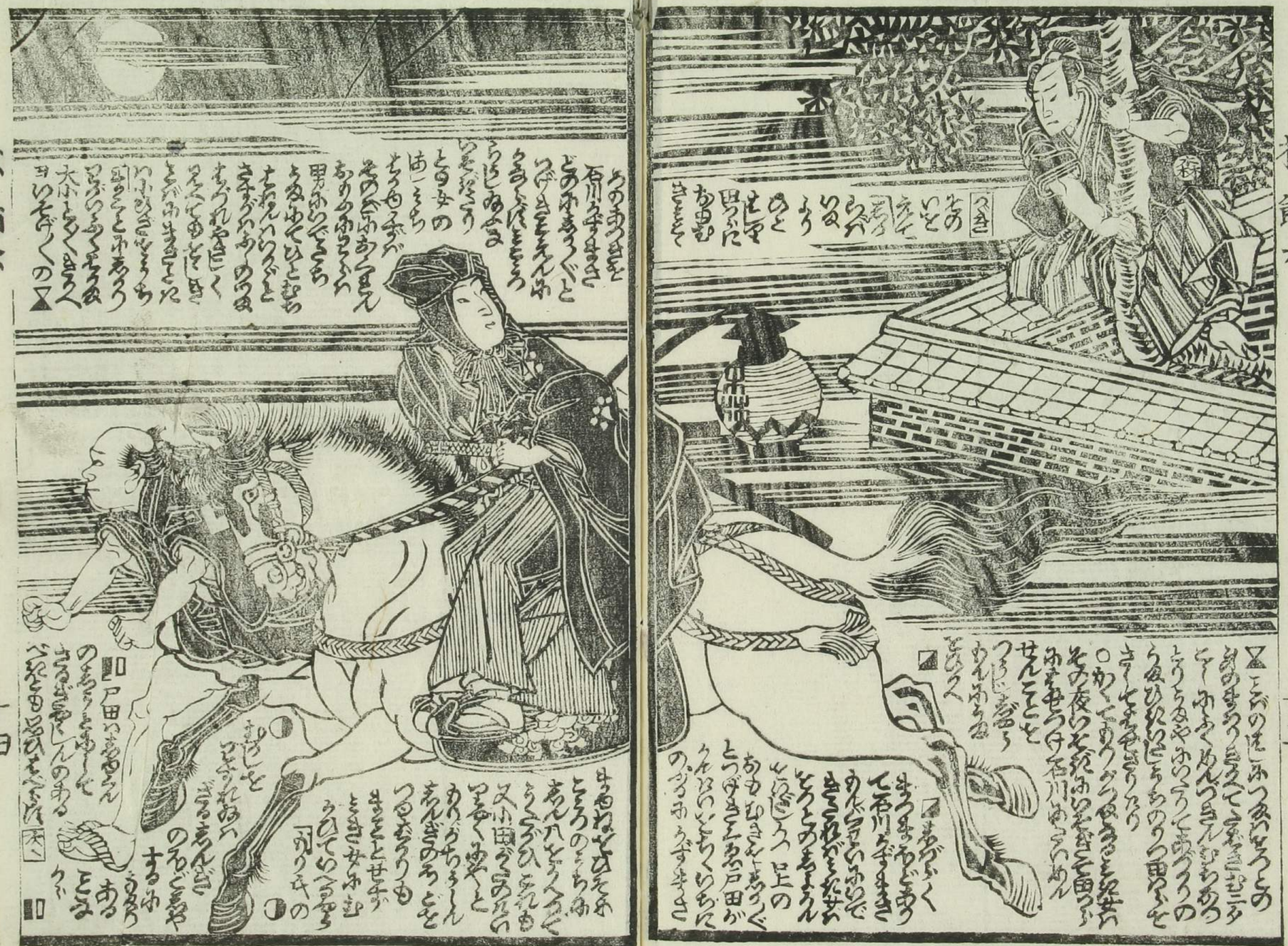
地本問屋　両國廣小路　加賀屋吉兵衛板

青蓋亭
六編下

戸田弾正
潮見坂の仮屋を設けて徳若丸を迎ふ図

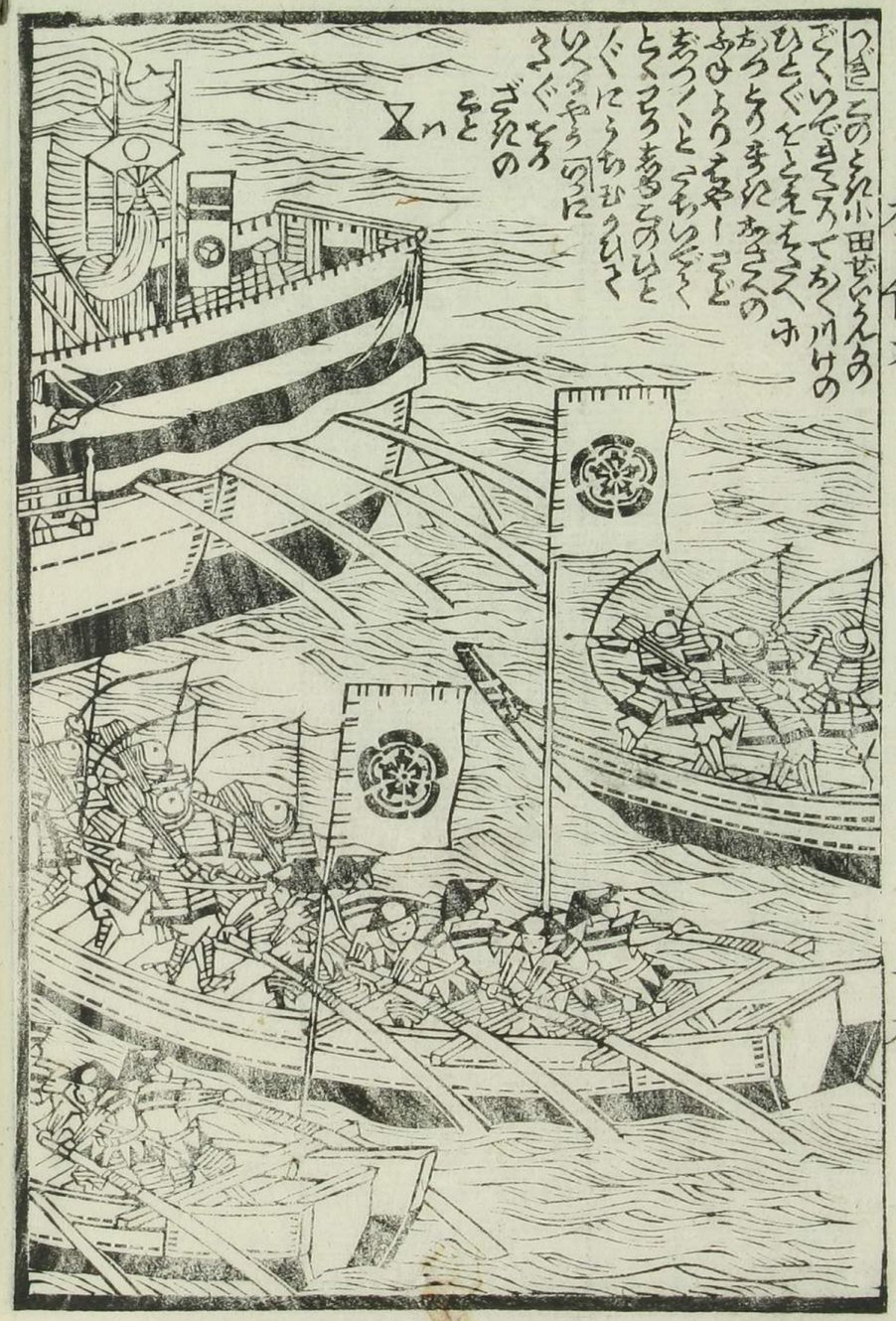


兵書
兵書

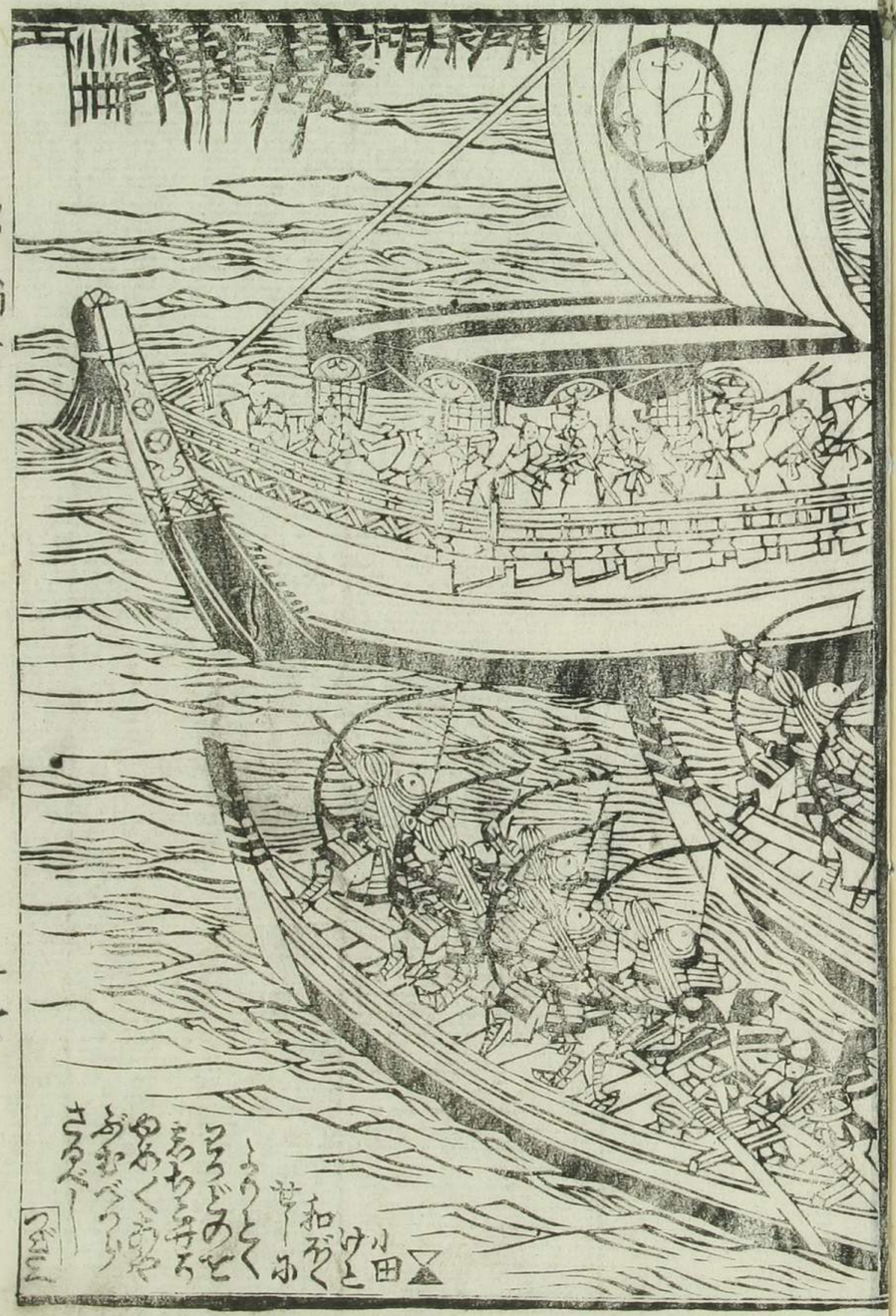


下馬

三のつぎ



つぎ　このときの小田ぢいえのぞくいでまつろてあく川けのひとぐとことをたくみあちらとまたあさえのあまとうちゃーこと
あつ〳〵とこちいぐくとくろうあるこのひとぐにうあむうれさいろのやう〳〵のにさぐとうざえのとと



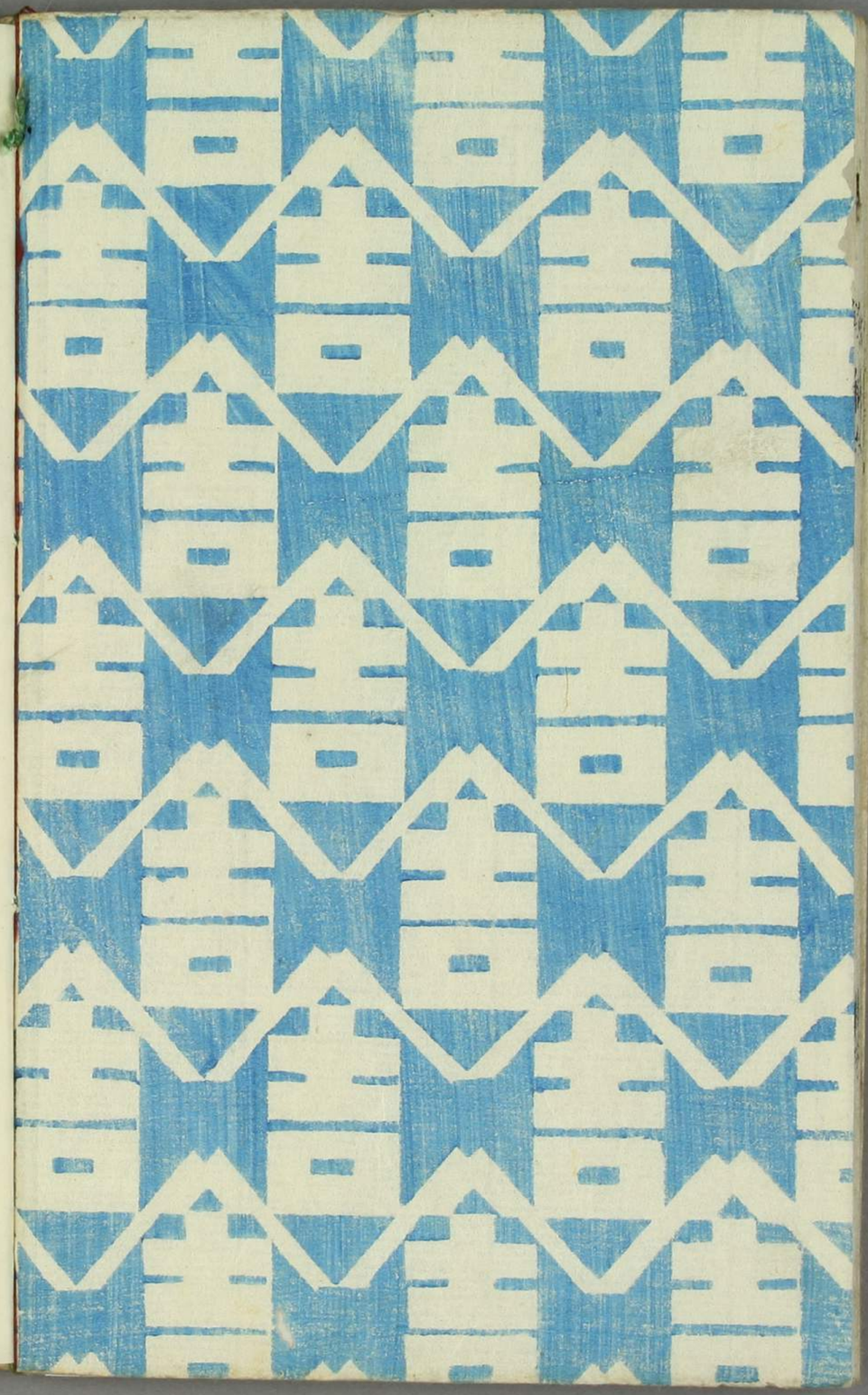
小田ひとく和ぢく
草ふ
ようとく
ろうどあと
あちこちろ
ぬくあや
ぶむぐうり
さうぐ〜
つぎ

假名垣著 錦朝樓画

新增補西國奇談 廿編 為永春水作 廿一編 孟齋芳虎画

薄緑娘白浪 九編 假名垣魯文作 十編 錦朝樓芳虎画

隅田川月と梅若 五編 柳亭種彦作 山々亭有人編次 六編 孟齋芳虎画

繪本太閤記 三編 孟齋芳虎画作

地本問屋 西國廣小路 加賀屋吉兵衛板